

日语导游

北京

导游考试辅导用书

主 编 / 正 阳

副主编 / 张一娟 施 旻

审 校 / 竹下弥生 及川纯子



人民交通出版社

日语导游——北京

日本語ガイド——北京

主 编 正 阳
副主编 张一娟 施 旻

人民交通出版社

日语导游——北京(CD-ROM)

主 编:正 阳 副主编:张一娟 施 旻

版权所有 翻录必究

电子出版物数据中心

人民交通出版社出品

(100013 北京和平里东街 10 号)

(010)64291878 64299027

各地新华书店经销

2003 年 6 月第 1 版

新出音管[2003]130 号

ISBN 7-89996-000-2/H·000

定价:22 元(含 CD-ROM、书)

《日语导游——北京》
编委会名单

主 编：正 阳

副 主 编：张一娟 施 旻

编著人员：于建明 郑成芹 莫琼莎 张一娟

施 旻 崔 寅 谢 圆

审 校：竹下 弥生 及川 纯子

统 稿：张一娟

前 言

首都北京——这座拥有 3 千多年历史的古城，以其众多的名胜古迹及丰厚的文化底蕴，吸引了来自世界各地的游客，日本游客更是络绎不绝。如何让日本游客更深刻地了解北京的过去和现在，了解中华民族历史文化的博大精深，是每一位日语导游所面临的课题。

为了帮助日语导游通过导游资格考试，较好掌握北京重要景点的日语讲述与表达，本教材根据考试要求，选取了北京最有代表性的十大景点，用地道的日语讲解，景点内容介绍丰富充实，并附有生动的接机、送机导游词。同时，我们还精心录制了与本教材配套的 MP3 盘，更方便考生和导游人员学习，是较好的导游资格考试辅导教材。

本作品编者多为曾留学日本并从事日语教学的专家，其中，接机、长城部分由张一娟编写；故宫、雍和宫、天安门、圆明园、十三陵部分由建明、郑成芹、莫琼莎共同编写；颐和园、送机部分由施旻编写；景山、北海由谢圆和崔寅编写，全部教材由张一娟统稿。此外，日籍专家竹下弥生女士、及川纯子女士分别对本教材全文进行了认真细致的审阅，在此特表谢意。

由于编者水平有限，难免会出现各种错误，敬请各位前辈、同行以及广大读者斧正。

编 委 会

2003 年 5 月

目 次

第一章 空港からホテルまで(くうこうからホテルまで) ……	1
北京の概要(ペキンのがいよう) ……	5
第二章 天安門(てんあんもん) ……	8
天安門(てんあんもん) ……	8
天安門広場(てんあんもんひろば) ……	10
人民大会堂(じんみんだいかいどう) ……	12
中国歴史博物館と中国革命博物館(ちゅうごくれきし はくぶつかんとちゅうごくかくめいはくぶつかん) ……	12
人民英雄記念碑(じんみんえいゆうきねんひ) ……	13
毛主席記念堂(もうしゅせききねんどう) ……	15
国旗掲揚台(こっきけいようだい) ……	15
第三章 故宮博物院(こきゅうはくぶつかん) ……	17
概説(がいせつ) ……	17
中路見学コース(ちゅうろけんがくコース) ……	20
午門(ごもん) ……	21
太和門(たいわもん) ……	22
太和殿(たいわでん) ……	23
中和殿(ちゅうわでん) ……	27
保和殿(ほうわでん) ……	28
乾清宮(けんせいきゅう) ……	29
交泰殿(おくだいでん) ……	30
坤寧宮(こんねいきゅう) ……	31
御花園(ぎよかえん) ……	32

東路見学コース(とうろけんがくコース)	33
齋宮(さいきゅう)	33
景仁宮(けいじんきゅう)	33
承乾宮(しょうけんきゅう)	34
永和宮(えいわきゅう)	34
景陽宮(けいようきゅう)	34
鐘粹宮(しょうすいきゅう)	35
外東路見学コース(がいとうろけんがくコース)	35
九龍壁(きゅうりゅうへき)	36
皇極殿(こうきょくでん)	36
第1展示室(だいいちてんじしつ)	37
第2展示室(だいにてんじしつ)	38
第3展示室(だいさんてんじしつ)	39
養性殿(ようせいでん)	40
暢音閣(ちょうおんかく)	40
楽寿堂(らくじゅどう)	40
頤和軒(いわけん)	41
珍妃井(ちんひせい)	41
寧寿宮花園(ねいじゅきゅうかえん)	41
内西路見学コース(ないせいろけんがくコース)	41
軍機処(ぐんきしよ)	41
養心殿(ようしんでん)	42
太極殿と永寿宮(たいきょくでん とえいじゅきゅう)	42
長春宮(ちょうしゅんきゅう)	43
儲秀宮(ちよしゅうきゅう)	43
外西路見学コース(がいせいろけんがくコース)	44

第四章 景山公園(けいざんこうえん)	45
概説(がいせつ)	45
登り(のぼり)	47
万春亭(まんしゅんてい)	48
その他の名所(そのたのめいしょ)	50
崇禎帝(すうていてい)	50
李自成(りじせい)	52
第五章 北海公園(ほっかいこうえん)	55
概説(がいせつ)	55
白塔山の瓊華島(はくとうざんけいかとう)	58
永安寺(えいあんじ)	59
白塔(はくとう)	59
閔古楼(えつころう)	60
倣膳飯荘(ほうぜんはんしょう)	60
五龍亭(ごりゅうてい)	62
静心齋(せいしんさい)	62
天王殿(てんのうでん)	63
鉄影壁(てつえいへき)	63
九龍壁(きゅうりゅうへき)	63
団城(だんじょう)	64
遮蔭侯(しゃいんこう)	65
団城酒がめ(だんじょうさかがめ)	65
第六章 天壇公園(てんだんこうえん)	67
天壇の概説(てんだんのがいせつ)	67
皇乾殿(こうけんでん)	70
祈年殿(きねんでん)	70
海漫大道(かいまんだいどう)	72

皇穹宇(こうきゅうう)	72
廻音壁(かいおんへき)	72
圓丘台(かんきゅうだい)	73
望燈竿、燎炉、燔柴炉(ぼうとうかん、りょうろ、 はんさいろ).....	74
齋宮(さいきゅう)	75
第七章 雍和宮(ようわきゅう)	78
概況(がいきょう)	78
排楼(はいろう)	81
昭泰門(しょうたいもん)	81
鐘鼓楼(しょうこうろう)	82
大きなかめ(おおきなかめ)	82
八角碑亭(はっかくひてい)	83
天王殿(てんのうでん)	83
銅鼎(どうてい)	84
御碑亭(ぎよひてい)	85
須弥山(しゅみせん)	85
雍和宮(ようわきゅう)	85
七珍(しっちん)	86
八宝(はっぽう)	87
永佑殿(えいゆうでん)	88
法輪殿(ほうりんでん)	89
魚龍変化盆(ぎょりゅうへんげぼん)	91
万福閣(ばんぷくかく)	91
照仏楼(しょうぶつろう)	92
四学殿(しがくでん)	92
第八章 頤和園(いわえん).....	94

概説(がいせつ)	94
東宮門(とうぐうもん)	97
仁寿門(じんじゅもん)	97
仁寿殿(じんじゅでん)	98
徳和殿(とくわでん).....	100
知春亭(ちしゅんてい).....	100
玉瀾堂(ぎょくらんどう).....	101
宣芸館(せんげいかん).....	102
楽寿堂(らくじゅどう).....	102
長廊(ちょうろう).....	104
排雲殿(はいうんでん).....	105
仏香閣(ぶつこうかく).....	105
知恵海(ちえかい)	107
蘇州街(そしゅうがい).....	107
聴鶴館(ちようりかん).....	108
石舫(せきほう).....	108
昆明湖遊覧(こんめいこゆうらん).....	109
第九章 円明園(えんめいえん)	111
概説(がいせつ).....	111
最盛期の円明園(さいせいきのえんめいえん).....	112
円明園(えんめいえん).....	113
長春園(ちょうしゅんえん)	114
綺春園(きしゅんえん).....	114
諧奇趣(かいきしゅ).....	120
海晏堂(かいあんどう).....	121
大水法、観水法(だいすいほう、かんすいほう).....	121
迷宮(めいきゅう).....	121

遺跡保護及び修復(いせきほごおよびしゅうふく)……	122
第十章 十三陵(じゅうさんりょう) ……	124
概説(がいせつ)……	124
十三陵の中軸線(じゅうさんりょうの ちゅうじくせん) ……	127
神路(しんろ)……	128
石碑坊(せきひぼう)……	128
大宮門(だいきゅうもん)……	128
大碑亭(だいひてい)……	129
石獸と石人(せきじゅうとせきにん)……	129
棧星門(れいせいもん)……	130
長陵(ちょうりょう) ……	130
昭陵(しょうりょう) ……	131
定陵(ていりょう) ……	131
禩恩門と禩恩殿遺跡(りょうおんもんとり ょうおんでんいせき) ……	132
宝城と明樓(ほうじょうとめいろう)……	132
地下宮殿(ちかきゅうでん)……	133
十三陵ダム(じゅうさんりょうダム) ……	136
第十一章 万里の長城(ばんりのちょうじょう) ……	138
万里の長城について(ばんりのち ょうじょうについて) ……	139
関溝と居庸関(かんこうときょようかん)……	142
雲台(うんだい)……	143
京張鉄道と詹天佑(けいちょうて つどうとせんてんゆう) ……	144
八達嶺長城(はったつれいちょうじょう) ……	146

城壁(じょうへき).....	147
敵台(てきだい).....	148
烽火台(のろしだい).....	148
長城に関する物語(ちょうじょうにか んするものがたり)	150
北京へ戻る途中(ぺきんへもどるとちゅう).....	152
第十二章 空港へのお見送り(くうこうへのおみおくり) ...	154

第一章

空港からホテルまで

くうんうからホテルまで

空港からホテルまで

ようこそ北京へいらっしゃいました。

長い空の旅で、さぞお疲れになりましたでしょう。

はじめまして、今度皆様のお世話をさせていただくことになりました、スタートラベル旅行社の楊新(ようしん)と申します。こちらは観光バスの運転手の馬さんです。私どもが今回の皆様の北京観光中のお供をさせていただきます。宜しく願いいたします。

中国の古い言葉に「友あり遠方より来たる、また楽しからずや」というのがあります。今日は遥々日本からおいでくださった皆様をお迎えできまして、まことに嬉しく思っておりますが、皆様もどうぞご自宅にお帰りになったつもりで、楽しくゆっくり北京滞在をお楽しみになって下さい。

それでは、これから私たちの観光バスは北京国際空港を後にして市内へと向かいます。今回皆様お泊りのホテルはスターホテルです。このホテルは北京の西側に位置しており、到着まで約45分かかるでしょう。

いよいよ、首都高速道路の料金所に着きますが、ここは高速道

路の入り口でもあります。首都高速道路は1992年7月2日から建設が始まり、1993年9月14日正式に開通しました。全長は18キロ余りで、幅は34.5メートルあります。6つの車線があり、時速は110キロまでに制限されています。この高速道路を走っていきますと、わずか10分足らずで環状線(かんじょうせん)の東三環路(とうさんかんろ)に出ます。

ではさっそくですが、北京滞在中の注意事項を幾つか申し上げます。

まず、交通ルールにお気を付け下さい。こちら中国は日本と違って、右側通行ですので、道を横断される時に十分お気を配っていただきたいのです。また、なるべく歩道橋をご利用されるようお勧めします。

次に時差についてですが、中国は日本より1時間遅れています。北京時間は中国の標準時になっています。北京旅行中の集合や出発の時間はすべて北京時間を基準にいたしますから、どうぞ、忘れないうちに皆様の時計を北京時間に合わせて下さい。つまり1時間戻してください。

それからお水のことです。ほとんどのホテルでは、水道水の水でも特別な浄化がなされ、「飲用水(いんようすい)」と書かれているものはそのまま飲んでもかまいません。しかし、それ以外のなま水はマグネシウムなどが多く含まれているため、そのまま飲むと病気になる可能性があります。ですから、なま水は直接飲まないようにしていただきたいのです。

最後に電気電圧について一言申し上げます。

中国国内では220ボルトなので、日本でご使用の電気器具はそのままでは使えません。220ボルトから100ボルトへの変圧器内臓タイプのものなら、そのままご使用になれます。例えば、海

外旅行用の小型ドライバーなど。そうではない場合は、ご使用なさらないほうが安全でしょう。

さて、前に見える立体交差橋は三元橋(さんげんきょう)といます。その三元橋のインターでつながっている道路から環状線の三環路に入ります。北京は今2008年のオリンピック大会に向けて、いろいろな工事が進められています。例えば、競技用の体育館や、選手の泊る選手村、また道路などです。特に道路は今私たちが走っているこの三環路の外側に四環路も、五環路も造られています。更にその外側に六環路が今工事中です。何しろ、中国で初めて行われるオリンピックですので、中国政府は各方面に力を入れております。建設工事の進行に伴って、北京もますます綺麗になっていくことでしょう。2008年のオリンピックには、皆様またぜひ北京へおいでください。

先ほど申し上げた三元橋に着きました。ここから三環路に入り、それから北の方へ向かって走っていきます。

さて、皆様左手のほうをご覧ください。この建物は中国国際展示センターといって、世界で最も素晴らしい展示館の一つです。中国国際展示センターは1985年に完成し、面積が15万平方メートルあります。その中には大型展示館が4つあります。これらの展示館はそれぞれ独立して使うだけでなく、組み合わせでさらに大きな展示館として使うこともできます。またたくさん附属建築物もあります。ここは国際博覧会連盟(こくさいはくらんかいれんめい)の主なメンバーでもあります。開業して以来、百回以上にわたって国内外の大型展示会が行われてきました。例えば、軽工業や重工業、農業、図書、科学技術、経済貿易などの展示会です。その中では特にハイテク関係や自動車展示会が人気を呼んでおります。

自動車といえば、今中国では車がブームになっています。統計によりますと、昨年(2002年)の中国の自動車生産量は400万台近くで、そのうち乗用車は300万台も売れたとのこと。特に北京、上海、広州等の大都会では、マイカーを買う家庭が多いです。資料によると、現在(2003年3月)北京の自家乗用車の所有量はそのトップを占め、190万台を突破したとのこと。

車種は様々ですが、外国と中国の合弁会社が生産した車が圧倒的なシェアを占めています。例えばドイツのフォルクスワーゲンと上海自動車や長春第一自動車とがそれぞれ合弁(ごうべん)会社を作っており、PASSAT(パッサート)やSANTANA(サンタナ)、JETTA(ジェッター)等を生産し、販売台数も乗用車の半分のシェアを占めていると言われています。日系車では広州本田があり、ACCORD(アコード)を生産販売し、人気を呼んでおります。純国産車は数少ないのですが、その中で有名なのは吉利(ジーリ)です。乗用車の値段は外国と比べれば高いのが現実です。具体的に申しますと、輸入車は税金がかかるため値段が一番高いです。合弁の国産車は安くて性能もよいので、純粹の国産車より高いのですが良く売れています。例えば、純粹の国産車は、最低3,4万元ぐらいです。合弁の車なら一番安い車種でも6万元以上します。

では、この三環路を走っている車をちょっとご覧になってみてください。その大部分が自家乗用車です。これからもっと多くなっていくに違いありません。中国も自動車社会になりつつあるのです。

さて、皆様どうぞ右手をご覧ください。あれは若者が良く訪れるところで大手スーパーのイケアです。3階にわたる広い空間に、寝具類から台所用品まで、いろいろなものが揃っていま

す。特に家具は人気があり、すっきりしたデザインとナチュラルな色とで若者の注目を集めているようです。

では、ここからホテルまで約15分かかります。この時間を利用して北京市について簡単にご紹介致します。明日以降の観光にお役に立てればと思います。

北京の概要(ペキンのがいよう)

北京市は中国の首都であり、政治や文化、国際交流の中心でもあります。面積は16800平方キロで、人口は1300万人を超えています。その三方を山に囲まれており、山地が総面積の62%を占めています。

北京市は市部の14区と4県からなっています。市部は東城(とうじょう)、西城(せいじょう)、崇文(すうぶん)、宣武(せんぶ)、大興(たいこう)、朝陽(ちょうよう)、順義(じゅんぎ)、通州(つうしゅう)、海淀(かいてい)、昌平(しょうへい)、豊台(ほうだい)、石景山(せつけいざん)、門頭溝(もんとうこう)と房山(ほうざん)の14区で、そのうち東城、崇文、西城、宣武区は内城外城を含む旧来(きゅうらい)の市街地(しがいち)で、人口が密集(みっしゅう)しています。それから4県というのは平谷(へいこく)、懷柔(かいじゅう)、密雲(みつうん)と延慶(えんけい)のことです。

北京は歴史が非常に長いです。市区から50キロも離れた南西にある周口店(しゅうこうてん)というところに、69万年前に人類の祖先である北京原人(げんじん)がすでに生活していました。3000年余り前の周の時代(西周燕国[せいしゅうえんこく])に、北京に城が築かれて、国としての形ができ、「薊(けい)」と名付けられました。この時から北京は都として始めて歴史上に登場しました。現在房山区に位置する「西周燕都遺跡博物館